

平成30年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な生活習慣の確立
- (2) 基礎基本事項の定着と学力向上
- (3) 進路指導の充実
- (4) 開かれた学校づくり

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 指導の改善・充実に繋がる校内研究と好事例収集	A	「ユニバーサルデザインの授業づくり」や「ICTを活用した効果的な授業構成」について校内研修を行い、知識やスキルの共有を図った。また、他校主催の公開授業・研修会等にも積極的に参加し、有効な指導事例を収集して授業への取り入れを図った。いずれの取組も継続していく。	B	A
	② 生徒のつまずきやそれへの手当に関する情報共有、連携した学習支援	B	各生徒のつまずきやそれらへの手当については、職員間で日常的な情報共有ができています。この情報を一層生かすため、生徒指導とも関連付けながら、学習環境の整備・学習規律の徹底を図っています。	B	B
	③				
学校関係者評価委員会における意見	授業態度が落ち着いてきた様子である。話を聞く姿勢等も良い。				
生徒指導	① リーダー養成と自主的な生徒会活動の推進	B	責任感や参画意欲を育むため、行事の企画や運営を意図的・計画的に生徒に担わせている。達成感や成就感を味わわせ、積極性や主体性を一層引き出すことができるよう、引き続き工夫する。	B	A
	② 生活態度の育成、よりよい生活習慣の涵養、交通安全指導の徹底	B	こまめな声掛けや個別指導・巡回指導の結果、ほとんどの生徒の生活態度・学習姿勢及び心身の健康に状態には改善・安定が見られる。少数ではあるが、よい生活習慣が身に付かず、体調が不安定な生徒も見られるため、見守り・声掛け・指導を継続する。	B	B
	③ 部活動の充実	A	活動が充実し生徒の満足感の高さが保たれるよう、運動部については大会前の部活動時間の確保、文化部については文化祭等の発表機会の開拓・確保などの支援を継続する。	A	B
学校関係者評価委員会における意見	少人数の条件下でも、生徒の個性・意欲を引き出し力を発揮させるよう、部活動の展開を工夫している。生徒会役員をはじめとして、生徒達にもっと校外に目を向けさせ、見聞を広めさせるとよい。				
進路指導	① ソーシャルスキルや自己表現力の育成を取り入れたキャリア教育充実と勤労意欲の育成	B	ソーシャルスキルトレーニングや各種の講話会・講習会の効果、学校の推奨に応じた就労（アルバイト）率の高まり等が相まって、自己表現力が育ち、勤労観も形成されている。引き続き、段階的なキャリア教育プログラムを充実させていく。	B	B
	② 就職・進学対策の充実と個に応じた進路達成の支援	B	引き続き取組を推進し、産業情勢や求人動向の把握に努めて就職希望生徒を支援するとともに、全日制進路指導部の協力を得ながら進学情報や模擬試験受験機会を提供する。また、支援スタッフとして連携コーディネーターの継続配置も要望する。	B	A
	③				
学校関係者評価委員会における意見	生徒各々が進む道を見付けられるよう、教職員や非常勤スタッフが多くの支援・努力をしている。インターン制度の活用を検討してはどうか。				
学習環境等	① 新校舎の供用実態を踏まえた防災計画の立案と見直し	B	新校舎供用開始に当たり、前年度末から今年度初めにかけ、防災マニュアルを大幅に改訂した。マニュアル類について不断の見直しを図るとともに、緊急時・発災時に自らの身を守る行動について引き続き指導し、生徒の知識・実践力の定着を図る。合わせて、発災時の避難・引渡等について、学校だより等を通し、保護者への周知に一層努める。	B	B
	② 日常の健康観察や保健指導・教育相談の取組	B	心身の安全や健康の自己管理、必要な受診・治療等について、保健だよりや掲示物等による啓発に加え、養護教諭による個別面談・個別指導等を行う。 職員間の情報共有やSC・SSWとの連携により、個々の生徒にきめ細かく対応する。	B	B
	③				
学校関係者評価委員会における意見	新しい校舎で専用の教室を得、しっかり学べることは、本当にありがたいことである。生徒達には、感謝の気持ちを持ち、自分のためにしっかりとまっすぐ進んで欲しい。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 基礎学力の定着と、個に応じた支援の充実	個々のつまずきや学習上の特性に関する情報の共有及び各事例に対する指導の手立ての研究。ICT活用や学び合いの充実に係る校内研修及び他校好事例研究の継続。
② 基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成	安全・健康の自己管理能力伸長を図る生活指導・給食指導及びSC・SSWと連携した支援。ルールやマナーの遵守に係る、全教職員の共通認識・共通規準による粘り強い指導の継続。
③ 相互補完的なキャリア教育と進路指導の充実	ソーシャルスキルトレーニング等の継続及び役割を与える諸行事等プログラムの充実。「名星タイム」を中核とし、支援団体との連携も図ったキャリア教育・進路指導の充実。